

のりです。作業がさつぱり進みませんでした。今日はよきうです。稲黍を落したいと存じます。人馬共に元氣です。から御

### 内郷村報の 六大使命

- 一、政策推進を超越して、村力充實主義を模倣す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者の聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘力を以て、國民發達に當る。

# 内郷村報

天法人則  
二從順ナ  
ルベシ

## 先づ自ら範を示せ

### 家庭教育秘訣

大内民恵

本紙、十月十一月兩號で、記者が磐城中學と、磐城高女で、講演した大要を讀まれた、數人の讀者から、家庭教育に關する意見を徵せられたのに對して、申上げた概要を、抄録修正して、ここに掲載することにしたのである。

家庭教育！之を教育といふ學問方面から云へば、むづかしい定義もあらうし、面倒な説明もあるだらうが、之を要するに、其最終の目的は、我後繼者たる子女を立派に育て上げ、其肉體も精神も、人間として、國民として、將た社會人として親兄弟に對し、國家に對し將た人類に對して、其本分を十分に盡す事の出来る様な者に、仕上げるといふ事に、歸するのであらうと思はれる。

さて然らば、どうすればよいかと云ふ事になるのである。

が、それは當然、學校教育と相俟つて、行はるべきものであるが、學校として居る事であり、又今日の制度からいつても、子女の個性なり、家庭なりをよく知委して、それに適應する教育を施すといふ事は、到底望むべくもなく、いはゞ一定の學科なり技藝なりを授けてもらふといふに過ぎない事であるので、躰けたとか、訓練だとかは、勢ひ家庭でやらなければならぬことになるのである。然し家庭としても、一定の職業を有し、それ、忙しい用事を控へて居るのであるから、それにかゝり切るわけにはゆかぬ。そこで我々は、どうすればよいかと云ふ事になるのである。

近江聖人中江藤樹先生は、われ身を立て道を行つて人のおのづから變化するを徳教といふといつて居られるが、先づ以て銘々が、身を立て道を行つて、模範を示せば、周圍の人々は、おのづから變化する、即ち今の言葉で云へば感化する、之が徳教であるといふのである。家庭教育は、正に此意味に於ける。

成功したものであると云ふべきである。うちのお袋には、困つた、うちのお袋には、あきれた、と子女より信用がない様では、如何に立派な説教を聞かせた處で、利目があらう筈はなく、斷じてよい子女が出来様はないと思はれる。但し反動的に親が悪い爲に、却つて其子女が發憤して、立身出世する。

## 同 情 袋

同情(昭和十年十二月十日より一週間) 十六日まで

主唱 全日本方面委員聯盟  
後援 内務省

同情週間にそれ、委員がお伺ひいたしますから本會事業のために白米一升以上を御同情下さるやうお願いいたします。

### 内郷村方面事業助成會

徳教であらねばならぬ、思はるゝのである。家族に對し、出入の人々に對し、國家社會に對し、一舉一動、行住座臥、父のなす事、母のする事は、眞に立派である。父の愛、母の情は、ほんたうに有り難い。此世の中に、父母より立派な人はない、父母より有り難い人はない、といふ様になつたならば、家庭教育は、

家庭愛によつて、邪道には、出来ない様に、出来なかつたものかと思はれる。子女をして、十尺の高處にのばせ様と希ふならば、親自身が、先づ十尺の高處に登つて、子女を引き上げべきである。然るに世の一般の親達は、五尺か六尺か、或はそれ以下の處に居つて子女を、十尺か或は其以上の處に、押し上げ様として居るのである。先づ以て、

難い哉である。先づ以て、長くも、明治天皇は、教育勅語に、我等臣民の實行すべき徳目を示され、最後に朕爾臣民ト俱ニ學々服膺シテ威其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フと仰せられ、御親ら我等に聖範を垂れられた。又會津藩士野矢常方先生の、大楠公を詠せられた

君の爲散れど教へておのれ先づ、あらじにむかふ櫻井の里、といふ歌があるが、回天の事業に對する、萬全の献策用ゐられず、從容決死、君恩に報ぜんとする心事を、餘蘊なくあらはして居る。其心事を繼承したる、父公に優るとも劣らざる、大忠臣にして、大人格者たる、小楠公を出せる、豈偶然ならんやである。

之を要するに、家庭教育の秘訣は、先づ自ら範を示し無爲にして化する、の一言に結語されるものといふべきである。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を發するものなり。

本紙定價 一月一元 半年五元 一年十元  
發行所 大内民恵 印刷所 平活版所

### 本村の同情週間

全日本方面委員聯盟主唱、内務省後援で、全國一齊に十二月十日より一週間を、同情週間として、方面事業の資金を、募集する事になったので、本村に於ても十一月二十九日午後一時より、村役場に助成會の理事支部長會議を開き、其實行方法を審議し、第一面に掲載したる如き、白米一升入の同情袋三千枚を調製し、それに配付して同情を仰ぐ事に決定し、或一部を除きて全村之を實行した。其結果は次號に於て報告することとする。因みに同情袋の裏面には、本村助成會の目的及全役員の名を印刷した

### 納税懇談會

自治精神を強化向上し、納税觀念を喚起する爲、縣下一齊に、十一月二十三日より三日間、納税デーを實施する事になったので、本村に於ても、十一月二十三日役場内に、納税懇談會を開催して、其主旨の徹底を計つた。

### 在軍警炭分會の總會と競射實施

一、總會

十一月十七日午前八時より、淺野翁頌徳記念館に於て、左の次第の下に、在郷軍人會警炭炭礦分會の第二回定期總會を開催す。參集會員百五十余名。  
長堀副長の開會の辭、國歌合唱。勅語勅諭奉讀(分會長)上原分會長の挨拶並に時局談、柳瀬理事の決算及事業報告、軍人會歌合唱、聖壽萬歲、前川副長の閉會の辭、時に午前十時。  
二、競射實施  
同日午前十時三十分より、金坂グラウンドに於て舉行、各班選抜射手(未入營者五、已教育者五計十名)七ヶ班に編成。班別得点競射、各班高点者競射、射手各班二名宛計十四名。其成績は左の如し。  
番外職員班 各發射彈五發 得点一二六點  
番外職員班 各發射彈五發 得点一二〇點  
優勝平太郎班 各發射彈五發 得点一二〇點  
個人競射 各發射彈五發 得点一二〇點  
一等 羽田久太郎 二〇點  
二等 二瓶淺次郎 一三點  
番外 前川副長 二〇點  
以上の外各班未入營者の命中成績已教育者に劣らぬ力働を發揮し、現下非常時の意氣を表現し、並居る觀衆をして、大に意を強うせしむるものがあった。

### 親和會世話役會

警炭の同會は、十二月一日午前九時より、淺野翁頌徳記念館に開催、上原事務主任、課員三十二名、世話七十九名出席、左記數件を審議した。(長塚幹事報)

### 年末年始缺禮の御挨拶

小生儀本年二月圖らずも奇禍に遭つて負傷致し爾來銳意療養に努めたる結果漸く全癒の域に達し其今日あるを得たるは之れ偏に大方各位の深甚なる御同情と御配慮との賜と深く肝銘致して居る次第で御座います。今や負傷後初めての嚴寒に對ひ一段の加餐を要するを以て此歳末歲始の公休四日間を利用して湯治静養を致したいと存じますので不本意ながら年末年始の御挨拶を缺禮いたしますから事情御賢察の上不惡御諒承下さる様特に御願申上げます  
昭和十年十二月十五日 拜具 濱崎善三郎

### 濱崎善三郎

十二月一日宮澤俱樂部に開催、圓谷支部長以下二十名出席。  
△綴支部  
十二月一日幹部改選を行ふ  
支部長松本信一、副支部長伊藤松一、幹事長武田兵三、會計齋藤興一伊藤誠。

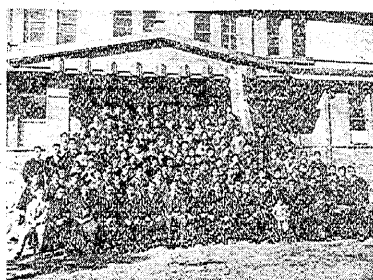
### 警炭青年會行事

△町田支部秋季總會  
議した。  
一、世話役任期満了につき改選の件  
二、宮川渡深奉仕の件  
三、東郷元帥記念事業寄附金の件  
四、神社參拜團體の件  
五、雜誌家の光購讀の件  
其他。

十二月一日平太郎俱樂部に開催。本部より上原會長以下出席。會員四十八名出席。會務報告、規約改正、會長訓辭、來賓祝辭、支部長挨拶ありて役員改選を行ふ。  
新役員、支部長猪狩喜平治、副支部長小貫操、新妻正義半、澤貞輔、幹事長佐藤豊武田、齋鈴木清。以下略す。  
△高坂支部茶話會

### 營養講習授與式

警炭健康保險組合主催の營養講習會修了證授與式は、十一月二十四日、淺野翁頌徳館に於て舉行せられた。關係者一同の記念撮影を行ひ、濱崎理事長の挨拶、證書授與、茂木講師の挨拶、書田院長の祝辭、新谷女史の總代答辭、閉會の辭あり



念記式與授書證習講養榮

### 主婦會と少年團

高坂主婦會は十一月十七日同少年團例會は同二十四日高坂俱樂部に開催、井上主任、赤土大内兩氏、佐藤首席訓導の講話があつた。

- 本紙贊助金寄贈芳名
- 金貳圓 平田 鶴田 廣隆
- 金貳圓 油井 松本 茂
- 金貳圓 大内 渡部 孝一
- 金貳圓 齊藤 齊藤
- 金貳圓 齊藤 齊藤
- 金貳圓 齊藤 齊藤
- 金貳圓 齊藤 齊藤
- 金貳圓 齊藤 齊藤
- 金貳圓 齊藤 齊藤

### 日本評論社

發行所 東京三丁目  
取次所 内郷村報社

### 昭和十年度内郷村入營者

### 教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内 民憲 著  
昭和十年十二月一日入營  
歩一 町田 富森 健一

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實情とから新に大内民憲九主義を提唱す。天下知名の士の發同校學に邁あらず。味と未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士  
書を寄せて曰く、多年ノ御體験下實地ノ御試練ニ基ク眞學國ノ大綱ヲ示シ拜味仕リ不恩感敬ニ打テ申候云々。

發行所 東京三丁目  
取次所 内郷村報社

内町小學校同窓會長大越久四郎氏は、之を聞くや、決然として湖流に飛び込み、危険を犯して、遂に之を救

△昭和十年十二月一日入營  
歩一 町田 富森 健一

品販賣所、俱樂部、診療所

四百名、一ヶ月出炭量六千噸の計畫をたて、追々住宅は増築され、引きつゞき物

△宮澤高坂支部  
九四七人、五一圓一三錢  
△綴支部  
五〇九人、四五圓三五錢

# 總會と競射實施

の意氣を表現し、並居る觀衆をして、大に意を強うせしむるものがあつた。

## 炭炭青年會行事

郡山市太田病院に入院加療中の同氏は、殆ど全快した

金貳圓 平松茂  
金貳圓 油井松本  
金貳圓 大内孝一  
金貳圓 齊茂

## 教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實際とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚等に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威 前京大總長小西直直博士 書を寄せて曰く、多年の御體験と實地ノ御試驗ニ基ク其學識國ノ大精神ヲ拜味仕り不感感激ニ行カシ申候云々。

發行所 日本評論社 東京京橋三丁目 取次所 内郷村報社

## 昭和十年度内郷村入營者

△昭和十年十二月一日入營	輻二 竹内 菅野 健一	步一 町田 富森 健一
鐵三 板宮澤 飯尾 正紀	輻二 金坂 山家 勝二	步二 代 清水 光男
△同十二年六月六日神戸集合	工二十 竹内 谷口 芳秋	△昭和十一年二月一日入營
△同十二年十月十日入營	△同十二年三月一日入營	同 濱井場 山田 春喜
同 坂下 久野 勇吉	同 町田 菅原 芳美	
同 町田 吉田 廣次	同 廣畑 大河原在吉	
同 水出 鈴木 庄平	同 峯根 渡邊 安吉	
同 鶴巻 山崎 一男	同 仲平 遠藤 一與	
同 櫻木 鳴原 善吉	同 代 渡邊 幸治	
同 瀧 美旗 榮吉	同 下内 坂本 勇	
同 鬼澤 熊田清三郎	同 平太郎 川上 幸平	
同 櫻井 南條 一治	同 關東騎三三 上宿 昌夫	
同 御殿 山内 主税	同 御殿 小野今朝次郎	
同 山砲二五 仁田 義美	同 蛭子 安藤 平吉	
△昭和十一年一月十日入營	同 平太郎 鈴木久四郎	
電一 竹内 中川 勝巳	同 堤田 小野 幸輔	
步二九 濱井場 古川 義光	同 獨歩二四 濱井場 齋藤 清壽	
同 板宮澤 山崎 忠	同 關野重九 御殿 大和田新吉	
同 川平 佐藤 政夫	同 飛一一 一坪 高橋 正司	
同 金坂 小西 信正	△昭和十一年四月一日入營	
同 秋山 高田 武雄	同 輻二 水出 市川 正海	
同 蛭子 坂場 正	同 同九 御殿 赤倉 勇	
同 野砲二 平太郎 關 寅雄	△同年六月三十日入營	
同 竹内 今野泰太郎 榮	海兵團 宮澤 高橋 力	
同 宮澤 郷 榮		
同 峯根 菅島 正衛		
山砲一 御殿 高木佐十郎		
工二 町田 竹澤 正一		
步三 同 佐藤 文吾		
步二九 同 坂本 正久		
横海兵 同 四家 治郎		
飛七 仲平		

### 入山川平復活

久しい間休抗状態にあつた入山炭礦川平坑は、最近石炭界の好況につれ、再び採炭事業を復活し、従業員約

### 東郷元師紀念

磐炭に於ては、従業員より東郷元師紀念學業資金を募集したる結果、左の成績を得た。



島田醫學博士

### 學位受領

島田醫學士息信勝氏(三)は十二月九日附を以て、文部

### 宮川浚潔奉仕

十二月八日、大字宮居住者は、毎戸一人づゝ出動して同部落を貫流する宮川の浚渫作業の奉仕をした。



炭礦事務所 炭礦事務所

### 人命救助申請

去る十月二十七日は朝來の強雨にて、夕刻には俄然大増水し、橋梁の流失、堤防の決壊、家屋の浸水等、被害甚からざりしが、午後六時字柳間を通行中の、武藤登氏(三〇)は、道路より足踏み外し、強流の爲、二丁程押し流され、辛うじて電柱にすがり、悲鳴を擧げ救助を求めつゝある處を、折柄此處を通りかゝりたる

世間では、炭礦といふと、恐ろしく不便な處であるかの様に相像して居るが、其實際について見るに、浴場といひ、髪床といひ、到

底田舎町などでは、見られない位完備して居る。炭礦では、特に従業員の爲に、相當の補助を興へて全山に八ヶ所の、理髮所を設けて居るが、何れも完全なる施設と、優秀なる技術を以て、しかも髮刈二十錢、顔剃り十五錢といふ低廉なる料金である。

高濱 盧子 正岡子規

### 炭礦の髮床

内町小學校同窓會長大越久四郎氏は、之を聞くや、決然として湧流に飛び込み、危険を犯して、遂に之を救助するに到れり。依りて白水消防組に於ては、其筋に其表彰方を申請したりと。

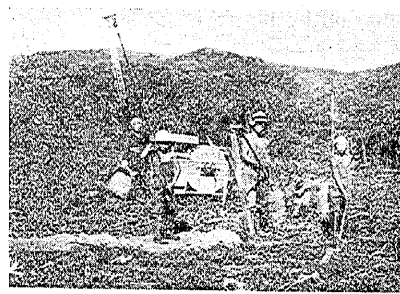
(黒頭巾生投)

開拓記

北海道十勝國上川郡 清水村北清水

大内一郎

拜啓 先日早速、敏夫信雄の認印を、お送り下さいまして、誠に有り難う御座いました。何れ取り入れ終了後に、貯金をさせてやらうと考へて居ります。二人共非常に喜んで居ります。昨日は内郷村報有り難う御座いました。母をはじめ一同、早速返讀いたしました。紙上正にカーンスターキヤスト?にも相似て、愉快に堪へません。一同健康です。御安心下さい。



(日四月十) 景光穀脱麥燕

(二郎公へ) 村報紙上の通信有り難う。先日來御父上より、度々の來信によつて、活躍振相像、曾て仙臺四聯隊に入隊見學した當時を思ひ出した。兎に角軍隊を實地に見學出來た事は、眞に有益であつたと思ふ。戰術演習では、面目を施した由、尤も「どうでもよい!」(註)之は二郎の常套語で常に一家の話題となる。の怪我の功名だらう、とは少しく口が悪いかな、但しそんな事はさうでもない。來られては、乃公も聊か慰まる。阿々。左様なら、まつた、信敏二少年からも、よろしくこのころ。十月二十一日

歸宅御挨拶

今春以來八ヶ月を、北海道の長男の許で暮し、去る一日一先歸宅いたしましたから、略儀ながら紙上を以て御挨拶申し上げます。昭和十年十二月十五日

大内きみ

キロですが、粉にしますと三十三キロ許りになつて終ひます。稲黍は五斗もの、二斗二三升位です。粉屋では、非常に粒の大きい一寸見られない、上等品です。等々繰返して貰つて居りましたが、乾燥は稍々悪いようです。但し之は本年の天候のせいですから、いたし方ありません。昨日、夕食はホットケーキ、昨日はマッシュポテト、今夕食は蒸しパン、明晩は手押しそばといふわけですが、母上も二少年も、勿論小生も更に支障なしといふ有様です。大いに前途有望で御座います。目下小麥粉百九錢位で、米價も大差なく、且つ自家生産で

内郷村報の

六大使命

- 一、政策政治を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總動員努力の實現を期す。
三、本村社会事業の徹底を期す。

天法人則 順ナ

更に一週間分の献立表作製に及びたいと存じます。先日松野先生(十勝實習場長)へ、食物改良は農事改良の一部なりといふ信念を實行するを以て、今冬期間の一宿題を解いて行きたいといふ事、一般經營に關しては、三年後を以て移住者としての見らるべき組織的經營方針を、樹立する様にしたい旨を、申上げて置きました。目下の處、出来る範囲に於いて、いろいろの試みをして居ります。時におつては、御苦勞をお掛けいたしました。際公は途は、母上のお目にかける事が出来ませんが、豫算通り十三回で譲り受けました。仲々元氣がよく、心配する程の事もなく、大根をさんく食へますので、安心いたして居ります。來春母上が來る、頃には、ゴロゴロ太る事で御座います。トン助トニ子と命名いたしました。飼料は、毎夕食後三升釜で一回半、煮たてで居ります。

冬籠が出来やうと思ひます。仰せの嫁の方は申し分御座いませうが、父上のいはる、此鬼界ヶ島に、果して流れ來るや否やが問題です。萬事父上にお任せします。十二月二十一日

本紙發行は内郷一家の事業に於て、其の社務は子孫に對する責任を兼ねるものなり。

家庭愛によつて、邪道にはならない様に、出来なかつたものかと思はれる。子女をして、十尺の高處に

近江聖人中江藤樹先生はわれ身を立て道を行ひて人のおのづから變化するを徳教といふといつて居られるが、先づ

成功したものであると云ふべきである。うちの親父には

本紙發行は内郷一家の事業に於て、其の社務は子孫に對する責任を兼ねるものなり。